

日	曜	活動内容等
1	金	県公立入学許可候補者発表
2	土	
3	日	
4	月	県公立追検査
5	火	表彰朝会
6	水	県公立追検査入学許可候補者発表部×
7	木	3年生を送る会②③④(保護者参観なし)
8	金	防パ(1-3・4)
9	土	
10	日	
11	月	
12	火	専門委員会
13	水	卒業式予行 3年給食終了 中央委員会
14	木	3年3時間授業 卒業式準備⑤ 部×
15	金	第45回卒業式 部×
16	土	
17	日	
18	月	1年授業公開・学級懇談会
19	火	生徒朝会 2年授業公開・学級懇談会
20	水	春分の日
21	木	短縮④ 2年球技大会 ふれあいデー
22	金	短縮④ 1年球技大会 給食最終日
23	土	
24	日	
25	月	短縮③
26	火	修了式
27	水	学年末休業日(～3/31)
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	

3年生の日程について  
授業はすべて4時間になります。  
卒業式は15日でも、正式な在籍期間は31日までです。高校生活ではありませんので、意識して生活してください。

令和5年度 西中の冬・・・



▲みとせ春のパン祭  
みとせではパンを調理し販売しています。生活力が身につきます。

▲関小あいさつ運動  
小学生とのあいさつ運動。元気な声が響きます。1日はじまりはあいさつから。

◀西中HP(市教委管理)へのQRコードです。学校便利等が掲載されています。写真もカラーでよく見られますのでご活用ください。掲載されるまで多少の時間がかかります。

西中の「おもい」とどけ北陸に!

西中、能登半島地震義援金募金 計52,783円 埼玉新聞に寄託し北陸の方々へ

3学期始業式で生徒会長/桑原そら「元日に発生した被災された人たちのために、明日から活動を実施します。みなさんご協力をお願いします」と...。会長の一ひと言の後、体育館の空気が張り詰めたように感じた。生徒たちの能登半島地震に対する心配や被災された方への気持ちが、一瞬その場を揺さぶったようだった。翌日朝から正門前の募金の様子を見ている...。校門を通る生徒たちが次々と募金箱に気持ちを投入してくれる。■「家族からの募金も入ります」と1000円札を入れてくれる生徒。■「小銭集めてきたよ」と手のひらいっぱい硬貨を寄付する生徒。■「毎日小銭を入れてくれる生徒。■「お年玉から少し...」と恥ずかしそうに募金する生徒。■募金期間が終了したにもかかわらず持参してくれた生徒...たった4日間の募金活動ではあったが、西中の「おもい」がひとつと北陸へ向かった期間であった。52,783円という額はもちろんのことだが、それ以上に、「一刻も早く」という誠意、「西中全員で」という気合い、「自分から主体的に」という思いやり、...それらが西中生同士の中で共感していた募金活動だった。今後日本で生きていく限り、地震への不安は消えることはない。ただ、今回のこの募金に協力したあなたのたち一人一人の「おもい」は絶対に忘れてほしい。



▲2024.01.31埼玉新聞/募金を携え埼玉新聞に寄託した生徒会役員  
り詰めたように感じた。生徒たちの能登半島地震に対する心配や被災された方への気持ちが、一瞬その場を揺さぶったようだった。翌日朝から正門前の募金の様子を見ている...。校門を通る生徒たちが次々と募金箱に気持ちを投入してくれる。■「家族からの募金も入ります」と1000円札を入れてくれる生徒。■「小銭集めてきたよ」と手のひらいっぱい硬貨を寄付する生徒。■「毎日小銭を入れてくれる生徒。■「お年玉から少し...」と恥ずかしそうに募金する生徒。■募金期間が終了したにもかかわらず持参してくれた生徒...たった4日間の募金活動ではあったが、西中の「おもい」がひとつと北陸へ向かった期間であった。52,783円という額はもちろんのことだが、それ以上に、「一刻も早く」という誠意、「西中全員で」という気合い、「自分から主体的に」という思いやり、...それらが西中生同士の中で共感していた募金活動だった。今後日本で生きていく限り、地震への不安は消えることはない。ただ、今回のこの募金に協力したあなたのたち一人一人の「おもい」は絶対に忘れてほしい。

119名(2/9現在)の新入生を迎える 令和6年度入学 新入生説明会

例年、授業見学会という形式により、新入生に中学校第一印象を感じてもらった新入生説明会での中学校体験であるが、今年度は先輩(3年生+生徒会本部)が直接新入生とふれあい、「西中校歌を唱う」という体験活動を行った。■児童生徒の立場に立つのスムーズな中学校への接続。■小中連携の深化。■中1ギャップの解消。■新入生の縦の関係への不安の希薄化。■在校生の先輩としての意識の自覚。等を指している実施だ。「小学生...1時間程度の短時間で、はたして校歌を歌えるのか?」という不安もあったが...子供たちの力には驚かされる。3年生がお手本を示し、中学生らしい歌声で堂々とした校歌を聴かせる。小学生は驚きと感動を覚える。たて続けに中学生の個別指導、小学生の歌を聴いての感想や改善点を近くで指導する。3年生の指導も熱を帯び、小学生も感情が高ぶってくる。たった30分後には歌詞カードを見ながらも、「入学式に歌声が披露できるのではないかと期待されるくらいに声が張っていた。新入生の能力の高さと中学への思いに感心した歌声だった。」その後、小学生からの中学生に対する質問コーナー。中学生なりにもおもしろおかしく、そして緊張させないように中学校生活を説明していた。さすがは3年生だ。勉強、定期試験、行事、部活動、先輩・後輩の関係等、小学生の中学校に対する興味・関心は尽きることがなかった。生徒会本部の面々もP.P.を駆使して、新入生とその保護者に中学校生活をわかりやすく説明していた。まだまだ緊張しての堅さもあったが、それなりに誠意を尽くして中学校生活について説明してくれたと思う。さて、現段階に於いて新入生119名という数字は微妙な数字だ。中1は特例措置があるものの、原則40人学級なので121名から正式に4学級となる。つまり現状で職員数も含めた正式な4学級になるためにはあと2名のプラスが必要だ。多分大丈夫だとは思っているが...。次年度は今のところ本校全体で18名生徒が減少する予定だ...。本地域においても少子化は大きな課題だ。

【写真上から】■3年生、新入生の前で歌声を披露。■もちろん3年生が練習も仕切ります。■小学生と中学生が混ざりあつての校歌練習。■生徒会、新入生保護者の前でも堂々とプレゼン。

「学校評価」という言葉がある。学校の教育活動が42項目にわたって評価されている。その結果に基づいて、学校の改善策を講ずる。これは、学校の教育活動が42項目にわたって評価されている。その結果に基づいて、学校の改善策を講ずる。これは、学校の教育活動が42項目にわたって評価されている。その結果に基づいて、学校の改善策を講ずる。

▼令和5年度も残り1ヶ月半...西中学校便利「みずほの丘の希望」も残り3月号、卒業号、年度末号の発行を残すのみとなりました。いつも本学校便りをご覧いただき心より感謝申し上げます。文字の細かさ等お叱りを受けているところですが、次年度の改善に向けご意見をいただければと考えております。つきましては、この紙片にご意見、ご感想等をいただき、お子様を通じて校長(もちろん担任を介して)までいただけたら幸いです。よろしくお願いいたします。

お子様の学年・学級 \_\_\_\_\_ 保護者名 \_\_\_\_\_ 年 組 \_\_\_\_\_

▼ご意見、ご感想をご記入ください(裏面記入可)

みずほの丘の希望

〒354-0018 富士見市西みずほ台3-14-6 TEL/049-252-4145 FAX/049-255-0233

令和6年2月13日 第15号 生徒数/413名 文責/堀川博基

西中スキー宿泊学習 in新潟・シャトー塩沢 スキー! SKI! 大好き!



行ってきました! 1学年スキー宿泊学習... あいさつどんでん メリハリましたし 感謝もりもり ~Lets go to the next stage~

2024.2.23...グレンデを滑るにはある意味最高のコンディション(曇天/雪はとげずに、雨も降らない天気...)のなか、1学年の生徒たちは雪山での青春を満喫した...。1年生は「よく笑う!」。朝がいくら早くても、慣れないスキーにも、レッスンが厳しくても、高いリフトに乗っても、雪がウェアに紛れ込んでも、ご飯を食べても、布団を敷いても、レクの出し物が滑って(?)も、帰りのバスの中でも...とにかく1年生は「よく笑う...!」。最高だ!笑顔は私たちが毎日を生き抜くエネルギーだ!そんな笑顔がどんなときにも満ちあふれている「赤ジャ!」最高だ!このスキー宿泊学習で感じたこと学んだことが、2年生の君たちにどう活かせるのか...いまから「赤ジャ」の面々が西中をどう変えてくれるのか...?本当に楽しんだ!雪は君たちを変えてくれた。そうみんな雪のせいだ!保護者の皆様、スキー宿泊学習の実施に際し、様々なご理解とご協力、本当にありがとうございました。多少の体調不良生徒はありましたが大過なく1泊2日を送ることができました。体験は子供を大きく成長させてくれるきっかけになります。気運を醸成させていただきます。来年度益々の「赤ジャ」の笑顔に期待しています...

取り戻した冬... いかなる教育も「体験」に及ぶことなし...

■「赤ジャ(1年生)」。スキー宿泊学習の写真(左)から垣間見られる笑顔、笑顔、笑顔...。生徒たちは心の底からスキー宿泊学習を楽しんでいた。何に對してもポジティブに楽しむことができる。「赤ジャ(1年生)」の生徒たちの大きな特徴であり、中学生として成長した成果でもある。この「楽しさを生み出したのは何か?」を理解し、残りの中学校生活につなげることができたならば、それはこのスキー宿泊学習のひとつの完結であろう。スキーの最中に実行委員の口から「修学旅行に活かす」という言葉がよく聞かれた。この体験をこれから活かしてほしい。それがこのスキー宿泊学習体験活動の最終目標だ。

■その意味では、ひと足早く修学旅行という大きな体験を積んだ2年生、この年度末に修学旅行で体験を活かして切れるのだろうか?何かフワフワしていないか?学校行事や体験活動の意味合いは様々あると思うが、私はこう考える...「決して行事そのものを楽しむだけではない。日常生活を充実させるための行事なのだ」。...だから行事のために日常生活がおろそかになったのでは意味はない。もちろんそれが「修学(学びを修める)旅行」であったとしても、その経験は未来の時間に活かせれば、修学旅行は成功してと言えないのだと思う。三送会、3年生はおお客様...実践の主演は「青ジャ(2年生)」だ。1・2年次の多様な体験や学びを糧として飛躍する「青ジャ(新3年)」に期待する。

■さあ、「緑ジャ(3年生)」の受験も大詰だ。前向きに考えれば入試も貴重な体験だ。今まで「楽な方」「簡単な方」と安易な選択しかしてこなかった君?!自分の人生を自分で決める挑戦ができるなんて、受験は最高のステージじゃないか。緊張にどっぷりと浸かり、入試を楽しんでこい。大丈夫だ!今、あなたたちは人生で一番応援されている時期なのだ。家族、先生、塾講師、地域の方々...そして3年間一緒に学んだ西中の仲間。こんなにも想いの強い応援団がついているんだ「負けるわけがない」。まずはしっかりと体調を整え、入学試験というイベントを楽しんでこい。...人間の強さに成長するチャンスだ!

■みとせ学級の諸君もたくさん体験を積んだ。パン作りだって、小学生との交流だって、他校との運動会だって、セルビア交流会だって...すべてがあなたたちが大人になるためのエネルギーになっている。この後の職場体験でも、卒業校外学習でも、みとせの絆を深めてほしい。

VUCAといわれるまさしく「お先真つ暗」な時代。そんな時代を生き抜いていくためには、「生きる」に機能する学び(体験)が絶対に重要だ。...「何かを学ぶのに、自分自身で経験する以上によい方法はない。」というアルベルト・アインシュタイン(物理学者)の言葉は現実味を帯びてくる。令和5年度の冬、西中生は体験による学びを取り戻した...。(堀川 博基)